

上郷開発 まちづくり勉強会（第27回）

2017.04.26（11時）

<議 題>

これからの「まち」について

- 「小さな拠点」のコンセプト
  - 1、小さな拠点とは何か？
  - 2、超高齢化と人口減少の地域社会対策の先回り戦略
  - 3、住民参加のエリアマネジメントの先行事例

○参考「小さな拠点」国土交通省の取組

○次回予定

5月24日（水）11時～

以 上

まちづくり勉強会 事務局

# 『小さな拠点』のコンセプトによる上郷猿田のまちづくり貢献

——「地区計画」におけるまちづくりの意義

## 1. 『小さな拠点』とは何か

- ・ 多省庁関係者と専門家の危機感
- ・ 取組の経緯と発想の原点
- ・ 上郷猿田地区の整備の参考要素
  - “小さな拠点”の取組がカバーしようとする問題に照らすことで課題が見える人がずっと少ないところでの取組は、無理のない形の参加が前提になっている
  - 大規模商業モールなどと異なる“生活の拠点”“安心の拠点”の要素として分かり易い

## 2. 超高齢化と人口減少の地域社会対策の先回り戦略

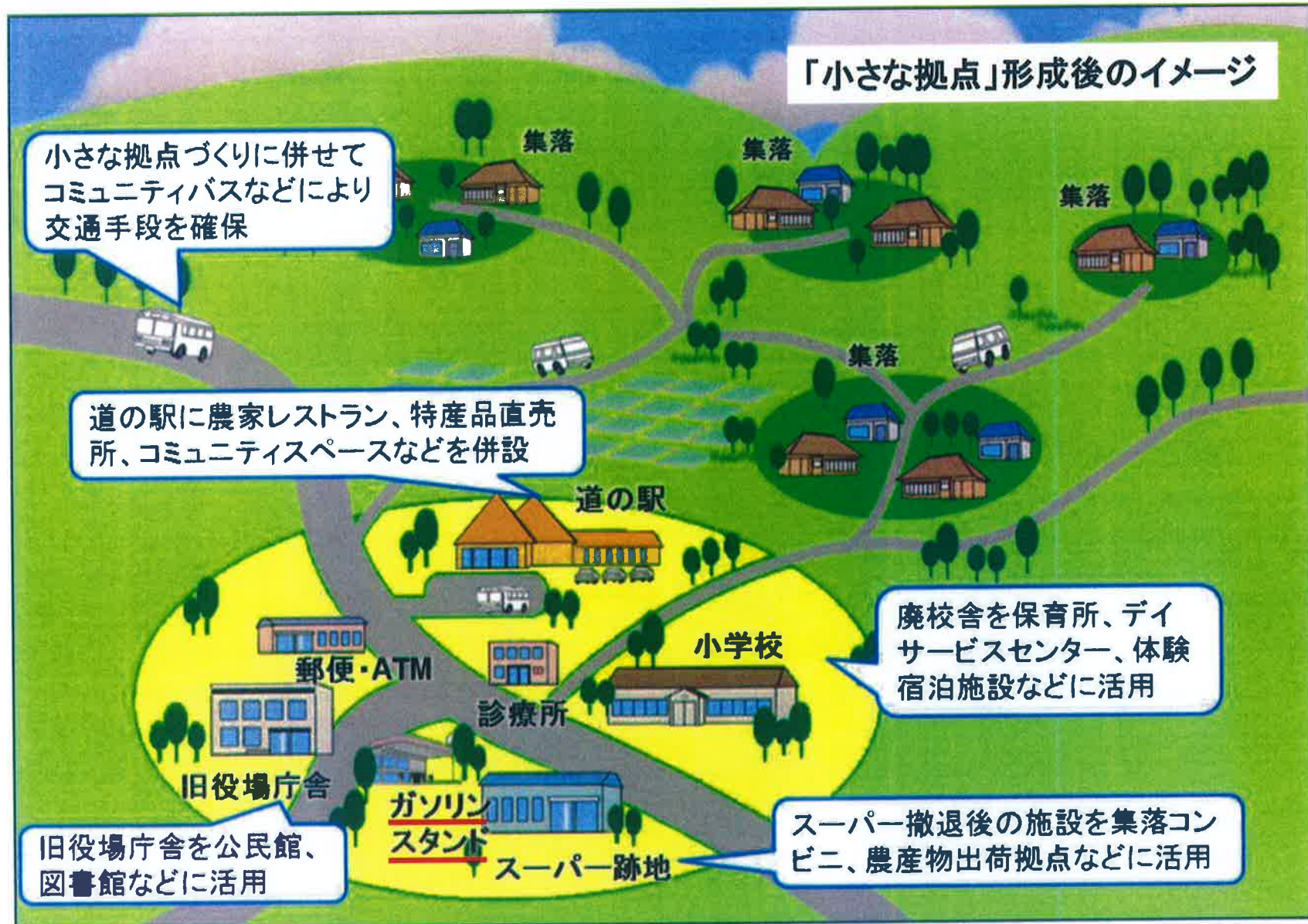
- ・ 想像することが難しい社会状況の変化とその対応
  - 郊外住宅地でも過疎集落以上に孤立し、買い物難民問題なども出現している
- ・ 限界集落での経験や取組から学べることが多くある

## 3. 住民参加のエリアマネジメントの先行事例

- ・ 「普通の生活者としての住民参加の仕組み」（持続可能なエリアマネジメント）の参考
- ・ 「農」を活かす地域活性化
  - “道の駅”的な要素を入れることで、「農」を活かす取組にも発展できる

# 「小さな拠点」とは

小学校区など、複数の集落が散在する地域において、商店、診療所などの日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を、歩いて動ける範囲に集め、**周辺集落とコミュニティバス等の交通ネットワークで結ぶこと**で、人々が集い、交流する機会が広がっていく、集落地域の再生を目指す取組



道の駅  
↓  
緑の駅

# 「小さな拠点」の形成・推進

人口減少・高齢化が進む過疎地域等において、基幹集落に生活機能等を集めた「小さな拠点」を核とし、周辺集落とのアクセス手段を確保した「ふるさと集落生活圏」の形成を推進することで、集落の再生・活性化を図る。このため、生活圏形成プログラムの策定及び具体化を一體的に支援するとともに、多様な関係者の連携・協働による総合的な取組を推進。

## 「小さな拠点」づくり

- 廃校舎等の既存公共施設を活用して行う施設の集約・再編、機能再生等  
(「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落生活圏」形成推進事業)



- 「道の駅」における地域経済、福祉、観光、防災等の地域拠点機能の強化のため、重点的に支援



## 構想策定・合意形成

### (プランづくり)

地域の点検、集落間の機能分担、「小さな拠点」づくり計画、公共施設の再編・整備計画の策定等

### (社会実験)

コミュニティ内の移動の確保や集落コンビニの運営等について、社会実験を通じて行う検証等

(「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落生活圏」形成推進事業)

例: 小さな拠点づくりに併せてコミュニティバス・デマンドタクシーなどにより交通手段を確保

例: 道の駅に農家レストラン、特産品直売所、コミュニティスペースなどを併設

例: 事業者とNPO等の協働による新たな輸送システムの構築

例: 廃校舎を公民館、図書館などに活用

例: 周辺集落や市街地とつながる生活交通の拠点づくり

例: スーパー撤退後の施設を集落コンビニ、農産物出荷拠点などに活用

例: 旧役場庁舎を保育所、デイサービスセンター、体験宿泊施設などに活用

※既存住宅ストックの有効活用の取組みとも連携

## ネットワークの形成

- コミュニティバス、デマンドタクシー、自家用有償旅客運送によるコミュニティ内の移動の維持・確保



- 事業者とNPO等の協働による宅配サービスの維持・改善や買い物難民支援等にも役立つ新たな輸送システムの構築



## 地域の担い手づくり

- ソーシャルビジネスをはじめ、地域ビジネスの担い手を支援する中間支援組織の育成等  
(新たな公による地域ビジネス創造支援体制の構築)

連携

連携

- 地域の見守りや地域の担い手となる人材確保、都市農村交流などの農山漁村の活性化等について、関係省庁（総務省、農林水産省等）と連携して総合的な取り組みを推進

※この他、構想策定や合意形成（「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落生活圏」形成推進事業）について、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、重複の排除を進めつつ、窓口の一元化を図る。

# 「小さな拠点」の取組事例①（京都府 南丹市 美山町 平屋地区）

- ・JA店舗(日用品等販売)の撤退を受け、その機能を引き継ぐ商店「ふらっと美山」をオープン
- ・「ふらっと美山」の運営は、住民有志の共同出資により設立した(有)ネットワーク平屋(現在は株式会社)が担う
- ・ふらっと美山の隣接地には、診療所、保健福祉センター、行政窓口などがあり、地域内外の交流拠点ともなっている

## 地域概要・背景

- ・地区人口：855人（333世帯）【H22.10.1現在】
- ・H12にJA店舗(食料・日用品等販売)が廃止



ふらっと美山 外観

## 取組概要

- 住民有志87人の出資により、JA店舗の業務を引き継ぐ(有)ネットワーク平屋を設立
- 美山町(当時)はJAから店舗を買収、修繕の上で、上記会社は無償貸与
- 「ふらっと美山」にはATMが、また向かいには、「農業振興総合センター」(中に観光協会案内所が在中)及び「高齢者コミュニティセンター」等があり、これらを含めた一帯を、全国でも珍しい既存施設を活かした道の駅「美山ふれあい広場」として登録
- 更に、道の駅の隣地には、診療所、保健福祉センターなどが元々設置
- ふらっと美山は、住民向けの食料・日用品だけでなく、観光客向けの商品も取り扱う店として再生。餅や味噌など、特産品の開発にも力を入れている。
- 民間周遊バス・コミュニティバスの停留所が隣接するほか、デマンドタクシーの試行運行(H23)も実施し、拠点と各集落との交通手段を確保している



拠点周辺の位置図

## 取組効果

- 行政から補助や助成を受けずに黒字を達成。
- 年間売上約1.6億円、年間利用者数約12万人(どちらもH26)